

心肺蘇生法の流れ

①意識の確認・応援を呼ぶ

意識があるか確認しましょう。「大丈夫ですか？」と肩をやさしく叩きながら大声で呼びかけます。呼びかけに何らかの反応がなければ「意識なし」です。

傷病者に反応がない場合は、「誰か来てください！」などと大声で叫び周囲の人を集めます。



②119番通報とAEDの手配

そばに誰かがいる場合は、119番通報を依頼します。また、近くにAEDがあれば持ってくるように頼みます。できれば、「あなた、119番通報をお願いします」「あなた、AEDを持ってきてください」などと指示をしてください。



③呼吸をみる

傷病者の呼吸を確認する為に、傷病者の胸とお腹の見やすい位置に移動し、胸とお腹が動いているか10秒以内に観察し確かめます。しゃくり上げるような途切れ途切れの呼吸(普通じゃない呼吸)の場合も胸骨圧迫(④)に進んでください。



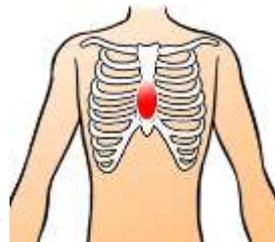
④胸骨圧迫

呼吸が無ければ胸骨圧迫を行います。

①平らな固い場所に仰向けで寝かせその横に座ります。

②立ち膝となり、胸の真ん中に手のひらのつけ根を当てその手の上にもう一方の手を重ねます。

③垂直に体重が加わるよう両肘をまっすぐに伸ばし、肩が圧迫部位(自分の手のひら)の真上になるようにします。



⑤気道確保・人工呼吸(2回) ※できない場合は胸骨圧迫へ

胸骨圧迫を30回行ったら気道確保をして人工呼吸を2回行います。(10秒以内で)

①片手で傷病者の額を押さえながら、もう一方の手の指先であごの先端(骨の部分)を持ち上げて頭を後ろにそらせ、支えます。

②気道を確保したまま、額に当てた手の人差し指と親指で傷病者の鼻をつまみ、口を大きく開いて傷病者の口を覆って密着させ、息を吹き込みます。

③胸が上がるのが見てわかる程度の量を約1秒間かけて吹き込みます。

④吹き込んだら、いったん口を離し、傷病者の息が自然に出るのを待ち、もう一度、口で口を覆って息を吹き込みます。



⑥胸骨圧迫と人工呼吸の繰り返し

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を救急隊やAEDが到着するまで繰り返します。

※人が多数いる場合は、胸骨圧迫を1～2分おきに交替して行います。

意識が戻らないがしっかりした呼吸がある場合、右図のような姿勢で観察を続けながら救急隊の到着を待ちます。

AEDが到着したら

①AEDの電源を入れる

AEDを持ってきたら傷病者の横に置き、電源を入れます。

電源はボタンを押すものと、ふたを開けたら電源が入るものがあります。

AEDは傷病者の頭の近くに置くと操作しやすくなります。



②パッドを装着する

電源を入れたらパッドを袋から取り出しパッドに書かれている絵のとおり傷病者にしっかりと貼ります。※機種によってはパッドを装着後本体のケーブル差込口に差すものがあります。

※パッド装着時の注意点はAEDの注意点(⑤)のとおりです。

③電気ショックの判断

パッドを装着するとAEDの解析が始まります。AEDの指示に従い「電気ショックが必要です」などのメッセージが流れた場合、自動的に充電を開始します。誰も傷病者に触れていないことを確認しショックボタン(点滅しているボタン)を押します。電気ショックの後はただちに胸骨圧迫(④)に進みます。

④心肺蘇生とAEDの繰り返し

AEDは2分おきに自動的に解析を行います(電気ショックの判断)。

以後、救急隊や医師到着まで心肺蘇生とAEDの手順を繰り返します。

救急隊到着までは普段どおりの呼吸をしばらくしてもAEDのパッドははがさず、電源も入れたままにしておいてください。

⑤AEDの注意点

1. 傷病者が濡れている場合(タオルで拭く)
2. 貼り薬がある場合(貼り薬を剥し、きれいに拭く)
3. 医療器具が胸に植込まれている場合(出っ張りを避けて貼る)



北見地区消防組合消防本部

救命講習のご相談は、救急ワークステーション 0157-33-3733